



DX 改革をどう進めるか (企業をどう変えるか)

2 月③のごあいさつ

山内公認会計士事務所
2021 年 2 月 26 日(金)

先日、「企業を変えて、それを継続させる**真の DX**」という演題でカドカワコネクテッド社長、各務茂雄氏の講演を聴いた。

最初に、「**世界の交差点**」沖縄の可能性について語り、転じて、DX は企業経営にとって「**難しい交差点**」であるとの指摘があった。それは、既存の企業にとって**アナログ(現実)の価値**を生かすために **DX(手段)**があることの理解ができにくいことにある。しかし、それは発想を変え、「**GAF A 的な働き方**」に「**日本的な要素を加える**」、そうすれば可能という。

現在、取組んでおられることは、**カドカワ**という古くさい企業、まさにアナログ的な、しかし、**そのアナログにこそ企業の本質的な価値を認め、そこへ、技術と思考方法という DX(デジタル)を組込み、企業を変革することに挑戦。**

捨てるべきを捨て、本質的な価値を残すという企業変革を DX によって行っているということであった。

確かに、企業経営にとって重要なことは、提供する精製商品とサービスの
(1) **品質の向上**と(2) **内部業務の効率化**であることは確かである。

企業経営は、この**タテの品質**と**ヨコの効率化**という**交差点を横切る**ことであるが、それを実現することが難しい。

これを実践するのに、現状の経営に **DX** を導入して経営の質を向上させるという試みは、**デジタル時代の今日チャンス**でもあり、必須の経営項目である。カドカワで実践されていることの生の講演は企業経営の参考にするために人を引きつける強い力を感じた。

カドカワでの実践(実験)は、新しいものに取り組むことであり、達成のための諸要件は多々あるが、そのうち重要性の対象の順序は、(1) **人と組織**、(2) **社内の仕組**に対してどう対処するかということであった。

その要諦は、**DX の本質を理解**する。それは**デジタル技術と合理的なマネジメントを融合**すること。そして、DX を実践する上で不可欠な様式は、**GAF A 的な働き方**なのであるということの理解と実践ということになる。

同氏の著作、「**DX 入門 GAF A 的な働き方を普通の日本の会社でやってみた**」を読み、講演を聴き乍ら、デジタル技術による合理的なマネジメントと仕事の**属人化を排するサービス型チームの形成**(仕事をサービスという機能として定義し、その中で各々の役割分担を明確に行ない、利用者に対する機能と品質の約束を守るチーム)、**日本製の GAF A 的な働き方の効果**ということの重要性を感じた。